

1. 千代田新水路事業概要

1.1 検討地区の概要

一級水系十勝川は、幹川流路延長 156km、流域面積 9,010km² を有する我が国屈指の大河で、その源を北海道の屋根、大雪山連峰十勝岳に発し、裏大雪山を東西に迂回、山間溪谷を縫流して広大な十勝平野の西北端に至り、豊頃町大津にて太平洋に注いでいる。

千代田新水路事業が計画されている千代田地区は図 1 - 1 に示すように、十勝川の河口から約 43km 上流側に位置し、十勝平野の中核である帯広市から直線距離で 11.5km の至便な位置にあり、釣り、サイクリング等住民の憩いの場となっている。また、既設の千代田堰堤から流れ落ちる流水の壮大さも相まって年間 40 万～50 万人の観光客が訪れる観光名所となっている。



図 1 - 1 検討地区位置図

1.2 新水路事業の必要性

現低水路に設置されている千代田堰堤は、十勝川の計画河床高より約 5.6m も高い固定堰であり、計画高水流量 9,300m³/s に対して現況流下能力が約 4,000m³/s と低い状況であるとともに、低水路も左岸側に大きく湾曲し、洪水時のスムーズな流れを阻害している。

昭和 56 年 8 月には約 6,000m³/s の洪水が発生し、計画高水位を越え、付近一帯の田畑に冠水、右岸側の護岸が崩壊、サケ・マス採卵場等の家屋も床上浸水して、流出寸前の状態になった。この洪水により床上・床下浸水 355 戸、総額 548 億円もの被害が発生した。

そのような背景から、当該地区の抜本的な治水対策として千代田新水路事業が計画された。



昭和56年8月の洪水災害の状況
(千代田堰堤)

出典：千代田新水路事業パンフレット

1.3 新水路事業の概要

千代田新水路は、千代田堰堤と現低水路を残した上で、千代田堰堤による流下能力不足を解消するため、右岸側の高水敷に新たな低水路を掘削し、新低水路の上流側には分流堰を設け、通常時はゲートを閉めて現低水路に流し、洪水時にはゲートを開けて新低水路にも水を流す計画である。また、新低水路の一部を活用し、その水路に疑似洪水を発生させて、実河川スケールでの様々な実験・研究を行う構想がある。



図1-2 千代田新水路事業地区空中写真

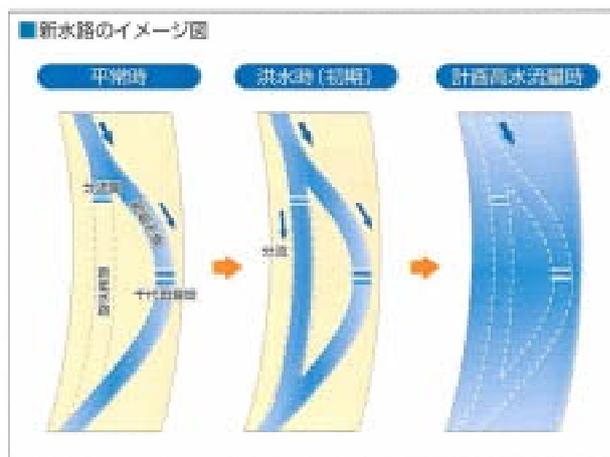


図1-3 新水路のイメージ図



図1-4 千代田分流堰イメージCG

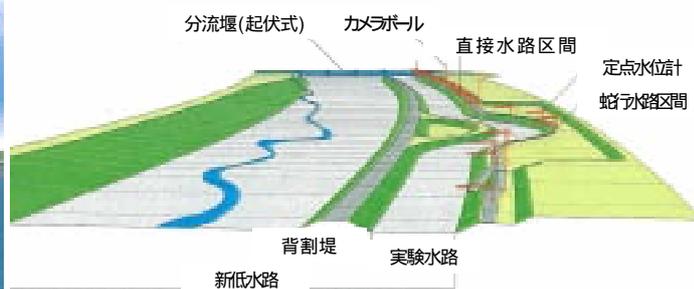


図1-5 千代田実験水路イメージ図

出典：千代田新水路事業パンフレット